

厚生労働科学研究費補助金（慢性の痛み対策研究事業）  
分担研究報告書

研究課題：若年性線維筋痛症の臨床像の把握と治療法の開発に関する研究

研究分担者：横田俊平 横浜市立大学大学院医学研究科発生成育小児医療学

研究協力者 菊地雅子 横浜市立大学附属病院

研究要旨：若年性線維筋痛症の一般認識度は依然低い。今回臨床的特徴と明らかにし、環境分離入院を行って症例を中心に治療効果を後方視的に検討した。素因として乳児期の愛着障害が考えられ、その上に形成された性格傾向（完璧主義、過剰適応、自己主張不全）を基盤にして、早期思春期における母子分離不全の結果、本症を発症することが推察された。今後、小児の心療科との連携を視野にアプローチをすすめる必要がある。

1. 研究目的

小児期発症の線維筋痛症を同定し、小児例の臨床的特徴を明らかにする。および「環境分離入院」による臨床症状の改善から成因を明らかにする。

2. 研究方法

外来受診者の問診により臨床的症候と症状を検討する。自律神経症状、睡眠障害、平熱について問い集計する。家庭環境要因の大きい患児について短期入院を勧め、入院中の医師・看護師・院内学級講師・臨床心理士などの対応から、本症のリスク因子を明らかにし治療に結びつける。

3. 研究結果

189例の外来受診者から得た臨床項目から、発症は9～12歳に集中しており、女児は男児の約8倍と高率であった。臨床症状として全身疼痛、腰痛がほぼ全例に認められ、頭痛、腹痛を呈する

例も多かった。他に、70%に睡眠障害を認め、50%に35台の低体温を認め、他に手掌発汗、便秘、胃部膨満、起立性調節障害を認めた。また、約1/3の例では下肢痛のため車椅子の使用していた。このうち54例について「環境分離入院」（平均3週間）を行った。入院中は家族との面会を止め、児童精神科において面談を繰り返し、リハビリテーションを行い、院内学級へ登校させたところ、1/3の例で独歩が可能となり、1/3の例は松葉杖で歩行が可能となった。

4. 考察

完璧主義、過剰適応、自己主張の欠落など独特の性格傾向の上に家族（とくに母親）・学校関係者（友人、教師。部活仲間）との軋轢がストレスとなり若年者の線維筋痛症が発症する経緯が判明した。その結果、交感神経系優位の自律神経調節障害も加わり、生活

破綻から不登校に至る。しかし、環境分離入院により新しい環境を用意してリハビリを含む積極的な介入により著しい改善が得られることも判明した。ただし、当科では臨床心理士がないので、積極的な心理検査、心理的アプローチが不完全であった。

## 5. 評価

### 1) 達成度について

目的に沿った達成が得られた。

### 2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

この研究で得られたものをわが国の「若年性線維筋痛症診断・治療」の手引きとして英文論文化し、また「研究班ガイドライン」に収載した。

### 3) 今後の展望について

発症に心的ストレスが加わることが引き金になっていることが推察され、とくに乳児期の愛着障害についての検討を行う必要性が示唆された。今後、母親との面談による詳細な調査が必要と思われた。また、経過の中で交感神経優位の状況が加わり、改善の可能性が低くなる傾向については、今後、神経炎症の側面から病因を探り、薬物療法の道を開けるようにする。

### 4) 研究内容の効率性について

本症の患児は約 10 万人と推定される。環境分離をさらに拡大し、同時に家族の心理的支援を行い、治癒を目指す。

## 6. 結論

ガイドラインに沿って本症の診断をすすめ、環境分離入院により治癒を目

指す環境が整った。

## 7. 研究発表

### 1) 国内

< 論文発表 >

1. 厚生労働省研究班「線維筋痛症診療ガイドライン」2009～2012.
2. 横田俊平、菊地雅子、宮前多佳子、他。子どもに起こる線維筋痛症。難病と在宅ケア 2011;17:35-37.
3. 宮前多佳子、菊地雅子、原拓磨、他。小児期に発症した線維筋痛症の臨床的特徴と性格傾向。日本小児科学会誌 2010;4;40-45.
4. 横田俊平、梅林宏明、宮前多佳子、他。小児期の線維筋痛症 3 症例の経験。日本小児科学会誌 2007;111:53-57.

### 2) 海外

< 論文発表 >

1. Yokota S, Kikuchi M, Miyamae T. Juvenile fibromyalgia: Guidance for management. *Pediatr Int* 2013;55:403-9.
2. Miyamae T, Seki M, Naga T, et al. Increased oxidative stress and coenzyme Q10 deficiency in juvenile fibromyalgia: amelioration of hypercholesterolemia and fatigue by ubiquinol-10 supplementation *Redox Rep* 2013;18:12-19.

## 8. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む)

- 1) 特許取得                      なし

2) 実用新案登録 なし